稲作農家　各位

山武稲作情報　臨時報

（2024年6月10日発行）

山武農業事務所　改良普及課
TEL：0475-54-0226
FAX：0475-52-7914

ジャンボタニシによる被害が拡大しています！

○今年のジャンボタニシの状況について

今年はジャンボタニシの越冬個体数が多く、また、通常は越冬しにくいとされる大きな貝も多く見られました。水稲の食害も発生しており、特に 5 月上旬以降に移植した水田で被害が発生しています。今年のジャンボタニシの状況を観察すると、被害の発生スピードが速く規模も大きい傾向にあり、「気がついたら大部分の苗が食われていた」という状況になった水田も多くありました。

○ジャンボタニシの越冬について

水田で生息するジャンボタニシは収穫前の落水のタイミングで地中に潜り、越冬に備えます。越冬中に、殻高1cm未満の小さな貝は寒さに耐えられずほとんどが死滅し、3cmを超えるような大きな貝も上手く地中に潜れないため凍死します。そのため、通常は主に殻高1cm～2cmの貝が越冬し、翌春に休眠から覚めて食害を行います。しかし、暖冬年ではジャンボタニシの生存率が上がり、翌年の個体数の増加や、大きな貝の越冬につながります。大きいサイズのジャンボタニシは食欲が旺盛であるため、食害の速度や被害面積も大きくなる傾向があります。

気象庁によると、令和6年冬（令和5年 12 月～令和6年 2 月）の日本の平均気温の基準値（平成 3 年～令和2年の 30 年平均値）からの偏差は+1.27℃で、統計開始以降、2 番目に高い値であったとのことで、この冬はかなりの暖冬だったことがわかります。ちなみに、第 1 位は令和2年冬で、その年は多くのほ場がジャンボタニシによる食害を受けました。

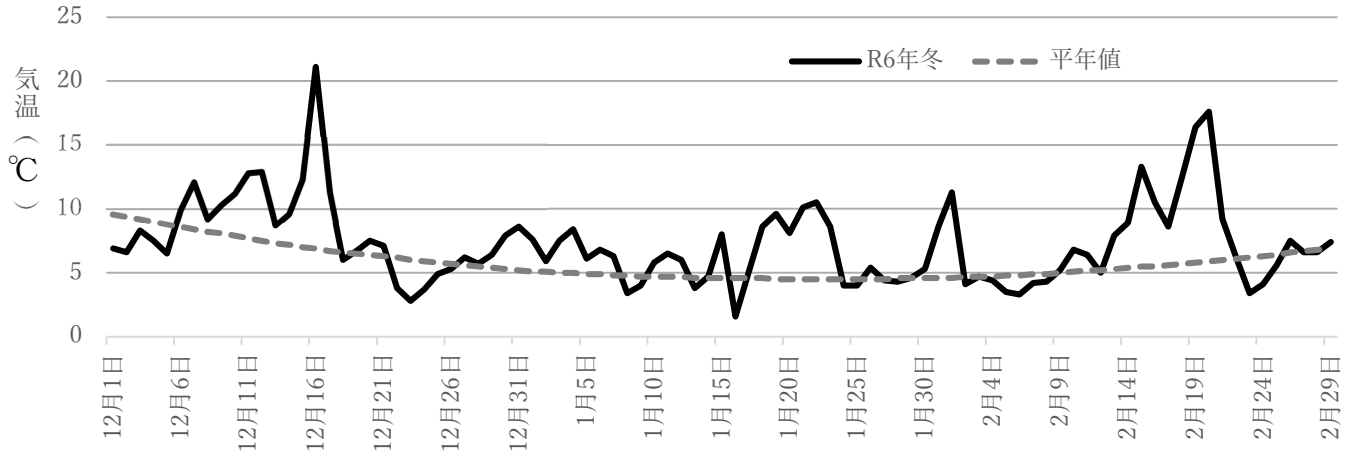

図　令和６年冬の日平均気温の推移

写真　（左）被害に遭ったほ場　（右）移植直後の水稲を食害するジャンボタニシ

○今すぐジャンボタニシによる被害を防止するには

今からできる被害防止方法として、浅水管理があります。水田の水を 4cm（可能であれば 1cm）以下で維持し、ジャンボタニシの活動を抑制して食害を抑えます。浅水管理は水田に高低差があると効果が低下してしまうため、水田の均平化が非常に重要になります。

また、浅水管理以外の方法として、殺貝効果や食害防止効果のある薬剤を散布する方法もあります。食毒により作用する薬剤はジャンボタニシが摂食しやすいよう湛水状態で、ほ場全面に均一に散布やジャンボタニシの集まっている深水部分への局所的な散布等、状況に応じて散布しましょう（必ず登録薬剤を使用し、ラベルに記載されている使用時期、使用方法、使用量、回数等を守って使用してください）。

○その他のジャンボタニシ対策

・ほ場への侵入を防ぎましょう

用水路に塩ビ管がある場合、塩ビ管に網（玉ねぎネットのような大きい袋）を仕掛けると貝がとらえられ、ほ場内への侵入を防ぐことができます。特に、用水が停止し、その後再開するときに多くの貝が侵入するので、栽培期間中はネットを設置しておきましょう。

・越冬する貝を減らしましょう

ジャンボタニシは寒さに弱いため、冬前のロータリー耕によって数を減らす（ロータリーの刃で直接破壊、寒風にさらして殺貝）することができます。ロータリー回転を速く、車速は遅くする（PTO2、時速 1.4km 以下）ことで効果が高まります。また、水が確保できる場合は石灰窒素の施用で殺貝をすることもできます。秋施用の場合、稲刈り後に水温が 15℃以上あるうちに3～4cmに湛水し、1～4日後に散布して、その後自然落水させます。使用に当たっては使用時期、使用方法、使用量、回数等を遵守してください。

・水田を均平にしましょう

均平化は水田に水を張った時に水面から露出する部分や深い部分を記録しておいて、代かき時に土を寄せる方法や冬期にレーザーレベラーによる整地を行う方法で行います。また、コンバインによる収穫の方法を工夫するだけでも高低差を改善できる場合もあります。

（詳しい方法は千葉県 HP「ジャンボタニシ（和名：スクミリンゴガイ）被害防止対策（https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/applesnail.html）」内の、「均平で被害軽減！千葉県のジャンボタニシ対策（令和５年９月作成）」で紹介されていますので、御参照ください。